



簡易懸濁法データベース

目次

1. 簡易懸濁法とは
2. 患者・医療関係者向け説明資料
3. 簡易懸濁法データベース

※データベースご利用にあたっての注意事項は、データベース最終頁の【補足】、【本データベースについて】をご覧ください。

簡易懸濁法とは...

錠剤やカプセル剤を粉砕することなくそのままの状態
で温湯（55～60℃程度）に入れて崩壊させてから
投与方法



攪拌後、懸濁するまで放置する（数分～10分）



ボトルに薬と温湯を入れる。



よく振り混ぜる。

～錠剤・カプセル剤などを溶解する方法～

当院では、お薬を飲みやすくするための工夫として錠剤やカプセル剤を粉末状にしたものではなく、錠剤やカプセル剤をそのまま 55-60℃ 程度の温湯* に入れ崩壊させてから投与させる方法を用いる場合があります。

このような方法を簡易懸濁法といいます。

【方法】

①まずはじめに、55-60℃ 程度のお湯を準備します。

※55-60℃ 程度のお湯の作成方法は、**水：熱湯＝1：2** として混合します。

②次に、お薬を温湯に入れてかき混ぜてください。

(この際、下記薬剤は軽く砕いた状態にしてから温湯に入れてください。)

③最後に、きちんとお薬が溶けていることを確認してください。

【軽く砕く必要性がある薬剤】

懸濁ボトルと薬を準備。必要に応じて軽く砕く。ボトルに薬と温湯を入れる。



経管口にボトルをセットし注入する。 溶けたことを確認する。 よく振り混ぜる。

【注意事項】

上記の行為を行う前には、必ず手洗いを行ってください。

火傷などしないように注意してください。

国立病院機構東京医療センター薬剤科

お湯の作り方

ステーションの蛇口を温湯側最大にすると約 55℃になる

錠剤を「ぬれ」やすくするため

崩壊・懸濁したことを目視で確認よく振ると早い

簡易懸濁法 東京医療センター 薬剤部のデータベース

2016.4.1更新

※ 複数規格あり ☆ 剤形違いあり

8Fr: EDチューブ、14Fr: ニュートラルデザインチューブ

薬剤名	規格	色	形状	可否 (8 Fr.)	可否 (14 Fr.)	コメント	当院での対処法
D-ソルビトール末		白	粉末	×	○		最小通過サイズ14Fr orD-ソルビトール液に変更
KCL末		白	粉末	○			
PL顆粒		白	粉末	○			
PZC (ピー・ゼット・シー) 錠	2mg	白	糖衣錠	○			
SG顆粒	1g	白	顆粒	○			
SM散		茶	粉末	○			
TS1カプセル	20mg	白	カプセル	○			抗がん剤→曝露防止策が必要
TS1カプセル	25mg	白/オレンジ	カプセル	○			抗がん剤→曝露防止策が必要
※ TS1OD錠	20mg	淡青緑	口腔内崩壊錠	○			抗がん剤→曝露防止策が必要
※ TS1OD錠	25mg	淡橙	口腔内崩壊錠	○			抗がん剤→曝露防止策が必要
☆ UFTカプセル	100mg	白	カプセル	○		沈澱物がみられてもそのまま投与可	抗がん剤→曝露防止策が必要
☆ UFT顆粒	150mg	白	顆粒	×	×	顆粒が残りが詰まる	UFTカプセルへ変更
※ アーチスト錠	1.25mg	黄色	フィルム・ティグ	○			
※ アーチスト錠	2.5mg	白	フィルム・ティグ	○			
※ アーチスト錠	10mg	淡黄	フィルム・ティグ	○		フィルム残存→取り除く	
アーテン散		白	粉末	○			
☆ アーテン錠	2mg	白	素錠	○			
アイトロール錠	20mg	白	素錠	○			
アカルディカプセル	1.25mg	橙	カプセル	○			
☆ アキネトン散		白	粉末	○			
☆ アキネトン錠	1mg	白	素錠	○			
アラベル内容剤							
☆ アクティーム錠	30mg	白	素錠	○			
アクトス錠	15mg	白	素錠	○			
アサコール錠	400mg	茶	フィルム・ティグ	△	△	細かく砕く (フィルム・ティグ 部分は溶けない。) / 腸溶錠	原則として投与不可 腸溶錠→管が腸まで届いてれば、病棟で破碎して投与可
アザルフィジンEN	500mg	黄褐色	フィルム・ティグ	△	△	フィルムは溶けないので取り除く / 腸溶錠	原則として投与不可 腸溶錠→管が腸まで届いてれば、病棟で破碎して投与可
アジルバ錠	20mg	微赤	フィルム・ティグ	○			
アスバラK錠	300mg	白	素錠	×	×	完全溶解せず、浮遊物・沈澱物・1/3錠残存。砕いて20分程度放置するとある程度は溶ける。	グルコンサンK細粒又はKCL末へ変更
☆ アスピリン		白	粉末	○		溶けないが懸濁状態で通る	
アスペノンカプセル	20mg	オレンジ	カプセル	○		カプセルがシリリングに付着するが通過	
☆ アスベリン散		オレンジ	粉末	○			
☆ アスベリン錠	20mg	オレンジ	素錠	○			
アセトアミノフェン (旧 ピリナジン)		白	粉末	○		溶けないが懸濁状態で通る	
アゼブチン錠	1mg	白	糖衣錠	○			
アダブチノール錠	5mg	赤	糖衣錠	×	×		簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難 →継続の必要性について、要検討
※ アダラートカプセル	10mg	オレンジ	カプセル	△	△	カプセルの溶け残りあれば取り除く	20分放置すれば投与可
※ アダラートCR錠	20mg	赤	フィルム・ティグ	×	×	徐放性、粉碎不可	セバミットR細粒へ変更 (可能な限り分2に変更する)
※ アダラートL錠	20mg	赤	フィルム・ティグ	×	×	徐放性、粉碎不可	セバミットR細粒へ変更
※ アタラックスPカプセル	25mg	緑	カプセル	○			
☆ アデホスコウ顆粒	1.0g/P	白	顆粒	×	×	顆粒は溶けない、フィルム残存	簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難 →継続の必要性について、要検討

簡易懸濁法 東京医療センター 薬剤部のデータベース

2016.4.1更新

※ 複数規格あり ☆ 剤形違いあり

8Fr: EDチューブ、14Fr: ニュートラルチューブ

薬剤名		規格	色	形状	可否 (8 Fr.)	可否 (14 Fr.)	コメント	当院での対処法
☆	アデホス腸溶錠	20mg	白	フィルム・ティング	×	×	砕いてもフィルム・ティング とともに成分も溶け残る	簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難 → 継続の必要性について、要検討
	アテレック錠	10mg	白	フィルム・ティング	○			
	アドシルカ	20mg	淡茶	フィルム・ティング	○			
	アドソルピン		淡灰	粉末	○			
※	アドナ錠	10mg	オレンジ	素錠	○			
※	アドナ錠	30mg	オレンジ	素錠	○			
	(後) アトルバスタチン錠「DSEP」	5mg	淡赤	フィルム・ティング	○			
	(後) アトルバスタチン錠「DSEP」	10mg	白	フィルム・ティング	○			
※	アナフラニール錠	25mg	白	糖衣錠	△	△	砕く	病棟で破碎して投与可
※	アナフラニール錠	10mg	白	糖衣錠	△	△	砕く	病棟で破碎して投与可
	アプレゾリン錠	50mg	白	糖衣錠	△	△	砕く(溶け残りあり)	病棟で破碎して投与可
	アベロックス	400mg	淡灰赤	フィルム・ティング	○			
	アボルブカプセル	0.5mg	黄	カプセル	△	△	カプセルの溶け残りあれば取り除く	
※	アマリール錠	3mg	淡黄	素錠	○			
※	アマリール錠	1mg	ピンク	素錠	○			
※	(後) アミオダロン速崩錠「TE」	50mg	白	素錠	○			
※	(後) アミオダロン速崩錠「TE」	100mg	白	素錠	○			
	アミティーザカプセル	24 μg	淡橙色	軟カプセル	○		溶け残りあり	(最大で) 10分放置すれば投与可、注射器で調製すると30%付着する。簡易懸濁ボトルなら問題なし (参考) 医療薬学 2014; 40: 285-90.
※	(後) アムロジピンOD錠「明治」	2.5mg	淡黄	素錠	○			
※	(後) アムロジピンOD錠「明治」	5mg	淡黄	素錠	○			
☆	アモキシサンカプセル	25mg	白/ピンク	カプセル	○		溶け残りあり	
☆	アモキシサン細粒		白	細粒	○			
	アモバン錠	10mg	白	フィルム・ティング	○			
※	アリセプトD	5mg	白	口腔内崩壊錠	○			
※	アリセプトD	3mg	黄色	口腔内崩壊錠	○			
	アリナミンF錠	25mg	黄色	糖衣錠	△	△	砕く(溶け残りあり)	継続の必要性について、要検討 病棟で破碎して(最大で) 10分放置すれば投与可
	アリミデックス錠	1mg	白	フィルム・ティング	○			
	アルケラン	2mg	白	素錠	○			
	アルサルミン内用液	1g/10mL	白	液	○			
☆	アルダクトンA細粒		白	細粒	○			
☆	アルダクトンA錠	25mg	白	素錠	○			
	アルタットカプセル	75mg	白	カプセル	×	△	白粒が残り入口が詰まる(白粒が固まりになる。シリンジ内に残る)	12Fr以上、多めの水で(最大で) 10分放置すれば投与可 他のH ₂ 拮抗薬を推奨
	アルドメット錠	250mg	白	フィルム・ティング	○			
※☆	アルファロール	0.25 μg	茶	カプセル	△	△	カプセルの溶け残りあれば取り除く	
※☆	アルファロール	1 μg	クリーム	カプセル	△	△	カプセルの溶け残りあれば取り除く	
	アレグラ錠	60mg	淡橙	フィルム・ティング	○			
	アレジオン錠	20mg	白	フィルム・ティング	○			
	アレジオンドライシロップ		白	ドライシロップ	○			
	アレビアチン細粒		白	細粒	○			
	アレビアチン錠	100mg	白	素錠	○			
	アレロックOD錠	5mg	淡橙	フィルム・ティング	○			

簡易懸濁法 東京医療センター 薬剤部のデータベース

2016.4.1更新

※ 複数規格あり ☆ 剤形違いあり

8Fr: EDチューブ、14Fr: ニュートラルチューブ

薬剤名	規格	色	形状	可否 (8 Fr.)	可否 (14 Fr.)	コメント	当院での対処法
アローゼン		黒	顆粒	×	○	全部溶けない(溶け残り生じることが閉塞なく通過する)	センノシド(調剤室粉碎)に変更 最小通過サイズ14Fr
アロシトール錠	100mg	白	素錠	○			
アロフト錠	20mg	白	糖衣錠	○			
アロマシン錠	25mg	白	糖衣錠	○			抗がん剤→曝露防止策が必要
アンカロン錠	100mg	白	素錠	○		少し溶けにくい	
アンギナール散		黄	粉末	○			
アンコチル	500mg	白	素錠	○			
アンブラーグ錠	100mg	白	フィルム・ティング	○			
アンブリット	25mg	白	糖衣錠	△	△	砕く	(最大で)10分放置すれば投与可
イーケブラ錠	500mg	淡黄	フィルム・ティング	○			
イグザレルト錠	10mg	淡赤	フィルム・ティング	○			
イグザレルト錠	15mg	赤	フィルム・ティング	○			
(後)イザナ [®] ト酸 [®] 顆粒状 [®] カ [®] ル [®] 「日医工	900mg	透明	カプセル	○			
イサロン顆粒		白	顆粒	○			
イスコチン錠	100mg	白	素錠	○			
イソニアジド末		白	粉末	○			
イソプリノシン錠	400mg	白	素錠	×	×	砕く(溶け残る。砕いた形で溶け残る)	簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難 →他剤を検討
イソミタール散		白	粉末	○			
イトリゾールカプセル	50mg	淡黄	カプセル	×	×	白粒が残る(チューブに溶けて詰まる)	最小通過サイズ16Fr orイトリゾール内用液に変更
イフェクサーSRカプセル	37.5mg	淡灰/淡紅	硬カプセル	×	×	徐放錠、粉碎不可	簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難 →他剤を検討
イフェクサーSRカプセル	75mg	淡紅/淡紅	硬カプセル	×	×	徐放錠、粉碎不可	簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難 →他剤を検討
イムラン錠	50mg	白	素錠	○			
※ イメンドカプセル	125mg	淡赤/白	カプセル	△	△	カプセルの溶け残りあれば取り除く	
※ イメンドカプセル	80mg	白	カプセル	△	△	カプセルの溶け残りあれば取り除く	
イリボー錠	5μg	淡黄	フィルム・ティング	○			
イレッサ錠	250mg	茶	フィルム・ティング	○		(参考)日本農村医学会雑誌 2010: 59: 281.	抗がん剤→曝露防止策が必要
インテバンSPカプセル	25mg	水色/透明	カプセル	○			
インデラル錠	10mg	白	素錠	○			
インフリーS	200mg	クリーム	カプセル	△	△	カプセルの溶け残りあれば取り除く	
☆ インプロメン細粒		白	細粒	○			
☆ インプロメン錠	1mg	白	素錠	○			
※ インヴェガ錠	3mg	白	素錠	×		徐放錠、粉碎不可	簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難 →他剤を検討
※ インヴェガ錠	6mg	淡褐	素錠	×		徐放錠、粉碎不可	簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難 →他剤を検討
☆ ウインタミン細粒		白	細粒	○			
☆ ウインタミン錠	25mg	ピンク	糖衣錠	○			
ウテメリン錠	5mg	白	フィルム・ティング	○			
ウブレチド錠	5mg	白	素錠	○			
ウラリット配合錠		白	素錠	△	△	砕く(溶け残りあり)	病棟で破碎して投与可
ウルグートカプセル	200mg	白	カプセル	○			
☆ ウルソ顆粒		白	顆粒	○			

簡易懸濁法 東京医療センター 薬剤部のデータベース

2016.4.1更新

※ 複数規格あり ☆ 剤形違いあり

8Fr: EDチューブ、14Fr: ニュートラルチューブ

薬剤名	規格	色	形状	可否 (8 Fr.)	可否 (14 Fr.)	コメント	当院での対処法
☆ ウルソ錠	100mg	白	素錠	○		わずかに溶け残りあり	
(後) ウルソデオキシコール酸錠「トー	100mg	白	素錠	○			
ウロカルン錠	225mg	黄	フィルム・ティング	○			(最大で) 10分放置すれば投与可
エースコール	2mg	白	素錠	○			
エカード配合錠HD	8mg	淡紅	素錠	○			
エカード配合錠LD	4mg	淡黄	素錠	○			
エクア錠	50mg	白	素錠	○			
エクシェイド懸濁用錠	125mg	白	素錠	○			
エクセグラン散		白	粉末	○			
エクセグラン錠	100mg	白	フィルム・ティング	○			
エクメット配合錠HD	合剤	淡黄	フィルム・ティング	△	△	砕く(フィルム・ティングの溶け残りは取り除く)	病棟で破碎して投与可
エクメット配合錠LD	合剤	微黄	フィルム・ティング	△	△	砕く(フィルム・ティングの溶け残りは取り除く)	病棟で破碎して投与可
エサンブール錠	250mg	黄	フィルム・ティング	△	△	砕く(フィルム・ティングの溶け残りは取り除く)	病棟で細かく破碎して(最大で) 10分放置すれば投与可 潮解性のため、調剤室での粉碎不適
エストラサイト	156.7mg	白	カプセル	○		少しカプセルが溶け残る(容器につく)	抗がん剤→曝露防止策が必要
エックスフォーシ配合OD錠	合剤	白	口腔内崩壊錠	○			
エックスフォーシ配合錠		白	フィルム・ティング	○			
エディロールカプセル	0.75μg	茶褐	カプセル	○		少しカプセルが溶け残る(容器につく)が投与可	
エバステル錠	10mg	白	フィルム・ティング	○			
エバテールSスティック	900mg	透明	カプセル	○			
エビスタ錠	60mg	白	フィルム・ティング	○			
エビビル錠		白	フィルム・ティング	○		沈澱物あり	
エビプロスタットDB錠		白	フィルム・ティング	×	×	砕く(とけきらない。フィルムも残存) / 腸溶錠	継続の必要性について、要検討or他剤へ変更
※ エビリファイ錠	3mg	青	素錠	○			
※ エビリファイ錠	6mg	白	素錠	○			
※ エフィエント錠	3.75mg	微赤白	フィルム・ティング	△	△	55℃のお湯で懸濁すると含量が低下する(製薬会社より)	常温の水で懸濁させる
※ エフィエント錠	5mg	微黄赤	フィルム・ティング	△	△	55℃のお湯で懸濁すると含量が低下する(製薬会社より)	常温の水で懸濁させる
エブランチル	15mg	白(青線)	カプセル	○		細かい白粒(カプセルの溶け残りあり)	
エホチール錠		白	素錠	○			
エミレース錠	3mg	白	糖衣錠	○			
※ エリキユース錠	2.5mg	黄	フィルム・ティング	○			
※ エリキユース錠	5mg	桃	フィルム・ティング	○			
エリスパン錠	0.25mg	白	素錠	○			
☆ エリスロシン錠	200mg	白	フィルム・ティング	×	×	酸で失活	エリスロシンドライシロップへ変更
☆ エリスロシンドライシロップ		白	ドライシロップ	○			
塩化カリウム		白	粉末	○			
塩化ナトリウム		白	粉末	○			
塩酸バンコマイシン散	500mg	白	粉末	○			
塩酸プロカルバジン	50mg	黄	カプセル	○			
エンドキサンP錠	50mg	白	糖衣錠	×	×	溶けきらない 55℃→安定性に問題あり	抗がん剤→曝露防止策が必要 簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難
エンピナーズPD	18000U	白	フィルム・ティング	△	△	砕く(かなり固い・砕けばフィルムは残存。成分がフィルムにわずかについて溶け残る) / 腸溶錠	原則として投与不可 腸溶錠→管が腸まで届いてれば、病棟で破碎して投与可
オーグメンチン配合錠	250mg	白	フィルム・ティング	○			潮解性のため、調剤室での粉碎不適
オゼックス錠	150mg	白	フィルム・ティング	○			
オゼックス小児用細粒	15%	淡ピンク	細粒	○			

簡易懸濁法 東京医療センター 薬剤部のデータベース

2016.4.1更新

※ 複数規格あり ☆ 剤形違いあり

8Fr: EDチューブ、14Fr: ニュートラルチューブ

薬剤名	規格	色	形状	可否 (8 Fr.)	可否 (14 Fr.)	コメント	当院での対処法
オダイン錠	125mg	白	素錠	○		多少の溶け残りあり	
☆ オノンカプセル	112.5mg	白	カプセル	×	×	成分が不定形に残存	オノンドライシロップに変更
☆ オノンドライシロップ		淡黄	ドライシロップ	○			
オメプラー錠	20mg	白	フィルム・ティング	△	△	腸溶錠	原則として投与不可 腸溶錠→管が腸まで届いてれば、病棟で破砕して投与可 ランソプラゾール (タケブロン) OD錠へ変更
オラベナム小児用細粒	10%	ピンク	細粒	○			
オルメテック錠	20mg	白	素錠	○			
ガスコン錠	40mg	白	素錠	○			
※☆ ガスターD錠	10mg	白	口腔内崩壊錠	○			
※☆ ガスターD錠	20mg	白	口腔内崩壊錠	○			
※☆ ガスター散		白	粉末	○			
ガストローム顆粒		白	顆粒	×	×	溶けない (シリンジ内に少し残る)	他の防御因子増強薬 (シバミビドなど) へ変更
ガストロゼピン錠	25mg	白	素錠	○			
ガスマチン散		白	粉末	○			
ガスマチン錠	5mg	白	フィルム・ティング	○			
カソテックスOD錠	80mg	白	フィルム・ティング	○			
カタプレス錠	75 μg	白	素錠	○			
カナグル錠	100mg	うすい黄	フィルム・ティング	○			
ガナトン錠	50mg	白	フィルム・ティング	○			
カナマイシンカプセル	250mg	肌色	カプセル	○			
※ カバサル錠	0.25mg	白	素錠	○			
※ カバサル錠	1mg	白	素錠	○		少し溶けにくいので長めに放置	
カハベン錠	200mg	白	フィルム・ティング	△	△	砕く	病棟で破砕して投与可
カフェイン		白	粉末	○			
カプトリル錠	1.25mg	白	素錠	○			
カリメート		白	粉末	○			
カルグート錠	5mg	白	素錠	○			
※ カルスロット錠	20mg	淡橙黄	素錠	○			
※ カルスロット錠	10mg	淡黄	素錠	○			
※ カルデナリンOD錠	1mg	淡黄	素錠	○			
※ カルデナリンOD錠	2mg	淡橙	素錠	○			
カルナクリンカプセル	25mg	オレンジ/白	カプセル	×	×	白粒が残存	簡易懸濁・粉砕による本剤の投与は困難 →他剤を検討
カルビスケン錠	5mg	白	素錠	○			
カルブロック錠	8mg	黄色	素錠	△	△	砕く	病棟で破砕して (最大で) 10分放置すれば投与可
(後) カルボシステイン錠「トーワ」	250mg	白	フィルム・ティング	○			
カロナール錠	200mg	白	素錠	○			
※ (後) カンデサルタン錠「あすか」	4mg	白	素錠	○			
※ (後) カンデサルタン錠「あすか」	8mg	うすいだいだい	素錠	○			
キネダック錠	50mg	白	フィルム・ティング	○			
☆ キプレス細粒	4mg	白	細粒	○			
☆ キプレスチュアブル錠	5mg	淡赤	チュアブル錠	○			
ギャバロン錠	5mg	白	素錠	○			
※ (後) クエチアピン錠「DSEP」	25mg	うすい赤	フィルム・ティング	○			
※ (後) クエチアピン錠「DSEP」	100mg	うすい黄	フィルム・ティング	○			

簡易懸濁法 東京医療センター 薬剤部のデータベース

2016.4.1更新

※ 複数規格あり ☆ 剤形違いあり

8Fr: EDチューブ、14Fr: ニュートラルディングチューブ

薬剤名	規格	色	形状	可否 (8 Fr.)	可否 (14 Fr.)	コメント	当院での対処法
(後)クエン酸第一鉄Na錠「サワイ」	50mg	白	フィルム・ティング	△	△	砕く(溶け残りが通過せず)	病棟で破碎して投与可or長時間放置する →フェロミア顆粒の方が投与しやすい
グラクティブ錠	50mg	淡黄赤	フィルム・ティング	○			
グラケ-カプセル		オレンジ	カプセル	△	△	カプセルの溶け残りあれば取り除く	
グラセプターカプセル	0.5mg	淡黄/橙	カプセル	○			
クラビット錠	250mg	黄	フィルム・ティング	○			
☆ グラマリール細粒		白	細粒	×	×	溶けない(シリンジにすべて残る)	グラマリール錠へ変更
※☆ グラマリール錠	25mg	白	フィルム・ティング	○		フィルムが残存するが成分は溶ける	(最大で)10分放置すれば投与可
※☆ グラマリール錠	50mg	白	フィルム・ティング	○		フィルムが残存するが成分は溶ける	(最大で)10分放置すれば投与可
※☆ クラリス錠	200mg	白	フィルム・ティング	○			
☆ クラリスドライシロップ		ピンク	ドライシロップ	○			
クラリチン錠	10mg	白	素錠	○			
グラндаキシン錠	50mg	白	素錠	○			
クリキシバン錠	200mg	白	カプセル	○		沈澱物あり	
グリチロン錠		白	糖衣錠	△	△	砕く(溶け残りが詰まる)	調剤時に粉碎すれば投与可 (病棟粉碎でも対応可能だが球形で粉碎しにくい)
クリノリル錠	100mg	オレンジ	素錠	○			
グリバック錠	100mg	茶	フィルム・ティング	△	△	粉碎不可(抗がん剤)	抗がん剤→曝露防止策が必要 (最大で)10分放置すれば投与可
グリミクロン錠	40mg	白	素錠	○			
グルコバイ錠	50mg	白	素錠	○			
グルコンサンK細粒		白	細粒	○			
グルファスト錠	10mg	白	素錠	○			
グルミン顆粒		白	顆粒	○			
※ クレストール錠	5mg	黄	フィルム・ティング	○			
※ クレストール錠	2.5mg	黄	フィルム・ティング	○			
クレメジン細粒	2mg	黒	細粒	○			
ケイキサレート散	5g	オレンジ	粉末	○			
ケイキサレートドライシロップ7.6%	764.5mb/g	黄褐色	ドライシロップ	○	○		
ケーワンカプセル	20mg	赤/橙	カプセル	○			
※ ケーワン錠	5mg	黄	素錠	○			
ケタスカプセル	10mg	白	カプセル	×	×	白粒が残存	簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難 →他剤を検討
ゲファニールカプセル100	100mg	淡黄色	軟カプセル	△	△	カプセルの溶け残りあれば取り除く	
☆ ケフラールカプセル	250mg	白・青	カプセル	○			
☆ ケフラール細粒		黄	細粒	○			
コートリル錠	10mg	白	素錠	○			
コートン錠	25mg	白	素錠	○			
コスパンカプセル	40mg	白/紅	カプセル	○			
コディオ配合錠EX	80/12.5	薄赤	フィルム・ティング	○			
コディオ配合錠MD	80/6.25	薄赤	フィルム・ティング	○			
コニール錠	4mg	黄	フィルム・ティング	○			
コベガス錠	200mg	淡赤	フィルム・ティング	△	△	砕く	病棟で破碎して投与可
コムタン錠	100mg	オレンジ	フィルム・ティング	○			
コメリアン錠	50mg	白	フィルム・ティング	△	△	砕く(溶け残りあり)	病棟で破碎して投与可
コランチル配合顆粒		白	顆粒	△	△	溶けない(入口に詰まりシリンジにも残る)	必要に応じてフラッシュする

簡易懸濁法 東京医療センター 薬剤部のデータベース

2016.4.1更新

※ 複数規格あり ☆ 剤形違いあり

8Fr: EDチューブ、14Fr: ニュートラルチューブ

薬剤名	規格	色	形状	可否 (8 Fr.)	可否 (14 Fr.)	コメント	当院での対処法
コリオパンカプセル	5mg	白	カプセル	○			
コルヒチン錠	0.5mg	青	素錠	○			
コルベット錠	25mg	白	フィルム・ティング	○			
コレバイン錠	500mg	白	フィルム・ティング	○			
コントミン糖衣錠	25mg	白	糖衣錠	○			
サーカネッテン錠		黒	糖衣錠	○			
サアミオン錠	5mg	白	フィルム・ティング	○			
ザイザル錠	5mg	白	フィルム・ティング	○			
サイトテック錠	200mg	白	素錠	○			
ザイボックス錠	600mg	白	フィルム・ティング	△	△	砕く	病棟で破碎して投与可
サイレース錠	2mg	白	素錠	○			
サインバルタカプセル	20mg	ピンク/白	カプセル	○		シリンジ内及び入り口にたまりやすい	
☆ ザジテンカプセル	1mg	白	カプセル	○			
☆ ザジテンドライシロップ		白	ドライシロップ	○		表面に白いものが残る	
※ サムスカ錠	7.5mg	青	素錠	○		0.5ml以上の温湯で溶ける	
※ サムスカ錠	15mg	青	素錠	○		0.5ml以上の温湯で溶ける	
サラジェン錠	5mg	白	フィルム・ティング	○			
サラソピリン錠	500mg	暗オレンジ	素錠	○			
サリグレンカプセル	30mg	白/黄色	カプセル	○			
サレドカプセル	100mg	白/橙	カプセル	○			抗がん剤→曝露防止策が必要
☆ サワシリンカプセル	250mg	白/茶	カプセル	○			
☆ サワシリン細粒		オレンジ	細粒	○			
酸化マグネシウム		白	粉末	○		(量が多いと) 入口に詰まりやすい	詰まらないよう少しずつ注入、フラッシュ
(後)酸化マグネシウム錠「ケンエー」	330mg	白	素錠	○		(量が多いと) 入口に詰まりやすい	詰まらないよう少しずつ注入、フラッシュ
ザンタック錠	150mg	白	フィルム・ティング	△	△	砕く	病棟で破碎して投与可orファモチジンD錠へ変更
サンリズムカプセル	50mg	白/青	カプセル	○		カプセルがシリンジに付着するが通過	
※ ジェイゾフト錠	25mg	白	フィルム・ティング	○			
※ ジェイゾフト錠	50mg	白	フィルム・ティング	○			
※ ジェイゾフトOD錠	25mg	白	口腔内崩壊錠	○			
ジェニナック錠	200mg/g	オレンジ	フィルム・ティング	○			
シグマート錠	5mg	白	素錠	○			
※☆ ジゴキシン錠	0.25mg	白	素錠	○			
ジゴシン散		白	粉末	○			
☆ ジスロマック細粒		淡オレンジ	細粒	○			
※☆ ジスロマック錠	250mg	白	フィルム・ティング	○			
ジスロマック小児用カプセル	100mg	白/橙	カプセル	○			
☆ シナール配合顆粒		淡黄	顆粒	○			
☆ シナール配合錠	200mg	淡黄	素錠	○			
ジヒデルゴット錠	1mg	白	素錠	○			
ジフルカン	100mg	橙	カプセル	×	×	カプセルの中身が塊になって残る	
※ ジブレキサ錠	10mg	白	フィルム・ティング	○			
※ ジブレキサ錠	5mg	白	フィルム・ティング	○			
※ ジブレキサ錠	2.5mg	白	フィルム・ティング	○			
※ ジブレキサザイディス錠	2.5mg	黄	口腔内崩壊錠	○			

簡易懸濁法 東京医療センター 薬剤部のデータベース

2016.4.1更新

※ 複数規格あり ☆ 剤形違いあり

8Fr: EDチューブ、14Fr: ニュートラルチューブ

薬剤名	規格	色	形状	可否 (8 Fr.)	可否 (14 Fr.)	コメント	当院での対処法
シプロキサシ錠	100mg	白	フィルム・テイング	○			
シベノール錠	50mg	白	フィルム・テイング	○			
ジャヌビア錠	50mg	薄赤黄	フィルム・テイング	○			
シュアポスト錠	0.5mg	白	素錠	○			
(後) シロスタゾールOD錠「サワイ」	50mg	白	口腔内崩壊錠	○			
硝酸亜鉛散		白	粉末	○			
シルテック錠	10mg	白	フィルム・テイング	○			
※ シングレア錠	10mg	灰黄色	フィルム・テイング	○			
シングレアOD錠	10mg	白	口腔内崩壊錠	○			
※ シンメトレル細粒		白	細粒	○			
※ シンメトレル錠	50mg	白	フィルム・テイング	○			
スーグラ錠	50mg	淡紫	フィルム・テイング	○			
スーテントカプセル	12.5mg	赤褐色	カプセル	○			抗がん剤→曝露防止策が必要
スクラルファート内用液10%「タイヨ」	1g/10mL	白	液	○			
スタラシドカプセル	50mg	白/紫	カプセル	○			抗がん剤→曝露防止策が必要
※ スタレボL錠	50mg	赤褐色	フィルム・テイング	△	△	砕く	病棟で破碎して投与可
※ スタレボL錠	100mg	赤褐色	フィルム・テイング	△	△	砕く	病棟で破碎して投与可
ストロカイン錠	5mg	白	素錠	○			
ストロメクトール錠	3mg	白	素錠	○		沈殿物あり	適宜フラッシュを行う(シリンジ・ボトルの沈殿残存があると有効性に影響する) (参考) 医療薬学 2012; 38: 78-86.
スピロベント錠	10μg	白	素錠	○			
※ スプリセル錠	20mg	白	フィルム・テイング	○			抗がん剤→曝露防止策が必要
※ スプリセル錠	50mg	白	フィルム・テイング	○			抗がん剤→曝露防止策が必要
スローケー錠	600mg	白	糖衣錠	×	×	徐放性	グルコンサンK細粒又はKCL末へ変更
スローフィー錠		白	フィルム・テイング	×	×	徐放性	フェロミア顆粒に変更
セイブル錠	50mg	白	フィルム・テイング	○			
セステンカプセル	30mg	白/オレンジ	カプセル	○			
ゼストリル錠	10mg	白	素錠	○			
ゼスラン錠	3mg	白	素錠	○			
ゼチーア錠	10mg	白	素錠	○			
セディール錠	10mg	白	フィルム・テイング	○			
☆ セバゾン散		白	粉末	○			
☆ セバゾン錠	1mg	白	素錠	○			
セバミットR細粒	2%	淡黄	細粒	○			
セファドール錠	25mg	白	フィルム・テイング	○			
セファランチン錠	1mg	白	素錠	○			
ゼフィックス錠	100mg	淡橙褐色	フィルム・テイング	○			
(後) セファゾピロキソリム塩酸塩錠「サリ」	100mg	うすい赤	フィルム・テイング	○	○	5分では溶け残りあり	(最大で) 10分放置すれば投与可
☆ セフゾンカプセル	100mg	ピンク	カプセル	○			
☆ セフゾン細粒		ピンク	細粒	○			
セブニー・Pカプセル		白/緑	カプセル	×	×	徐放性+腸溶性顆粒、胃溶性粉末	簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難 →他剤を検討
セララ錠	25mg	淡黄	フィルム・テイング	○			
※☆ セルシン錠	2mg	白	素錠	○			
セルセプトカプセル	250mg	淡青/淡赤茶	カプセル	△	△	カプセルの溶け残りあれば取り除く	

簡易懸濁法 東京医療センター 薬剤部のデータベース

2016.4.1更新

※ 複数規格あり ☆ 剤形違いあり

8Fr: EDチューブ、14Fr: ニュートラルチューブ

薬剤名	規格	色	形状	可否 (8 Fr.)	可否 (14 Fr.)	コメント	当院での対処法
☆ セルテクト錠	30mg	白	素錠	○			
☆ セルテクトドライシロップ		白	ドライシロップ	○			
☆ セルベックスカプセル	50mg	緑/白	カプセル	○			
☆ セルベックス細粒		白	細粒	○			
セレキノン錠	100mg	白	フィルム・ティング	×	×	不適	簡易懸濁・粉砕による本剤の投与は困難 →他剤を検討
セレコックス錠	200mg	白	素錠	△	△	少し溶け残るので砕く	病棟で破砕して投与可
セレコックス錠	100mg	白	素錠	○			
セレジスト錠	5mg	白	素錠	○			
セレスタミン配合錠		白	素錠	○			
セレナル錠	10mg	白	糖衣錠	○			
セレニカR細粒		白	細粒	×	×	粒が溶けない	バレリンシロップへ変更
☆ セレネース細粒		白	細粒	○			
※☆ セレネース錠	1mg	白	糖衣錠	○			
※☆ セレネース錠	3mg	白	糖衣錠	○			
※☆ セレネース錠	0.75mg	白	素錠	○			
ゼローダ錠	300mg	白	フィルム・ティング	△	△	砕く(溶け残りあり)	抗がん剤→曝露防止策が必要 病棟で破砕して投与可
※ セロクエル錠	100mg	黄色	フィルム・ティング	○			
※ セロクエル錠	25mg	ピンク	フィルム・ティング	○			
セロクラール細粒		白	細粒	△	△	表面に白い溶け残りがありシリンジにくっついて残る	
セロクラール錠	20mg	白	素錠	○	○		
※ セロケンL錠	120mg	白	フィルム・ティング	×	×	徐放性	セロケン錠へ変更
※ セロケン錠	20mg	白	フィルム・ティング	○			
(後) センノシド錠「トーフ」	12mg	茶褐色	糖衣錠	×	△	砕いても溶け残る	調剤時に粉砕すれば投与可
ゾーミックRM錠	2.5mg	丸ツ 様白	素錠	○			
ソタコール錠	40mg	微青	素錠	○			
ソナコン細粒		白	細粒	○			
ソフラン錠	4mg	白	フィルム・ティング	○			
ソラナックス錠	0.4mg	白	素錠	○			
ソランター錠	100mg	白	フィルム・ティング	○			
ソリタT2顆粒		白	顆粒	○			
(後) ソルピテム酒石酸塩OD錠「トーフ」	5mg	淡黄	口腔内崩壊錠	○			
ダイアート錠	60mg	白	フィルム・ティング	○			
ダイアモックス錠	250mg	白	素錠	○			
ダイドノレル錠	200mg	白	素錠	△	△	きちんと砕く必要あり(溶け残りあり) 川口工業総合病院公開データより	調剤時に粉砕すれば投与可
※ ダオニール錠	1.25mg	白	素錠	○			
※ ダオニール錠	2.5mg	白	素錠	○			
☆ タガメット細粒		白	細粒	○			
☆ タガメット錠	200mg	白	フィルム・ティング	○			
タケキャブ錠	10mg	微黄	フィルム・ティング	○			
タケキャブ錠	20mg	微赤	フィルム・ティング	○			
※ タケブロンOD錠	15mg	白・赤橙の斑点	口腔内崩壊錠	△	△	55℃のお湯で懸濁すると粒が残り、詰まりやすい	常温の水で懸濁させる
※ タケブロンOD錠	30mg	白・赤橙の斑点	口腔内崩壊錠	△	△	55℃のお湯で懸濁すると粒が残り、詰まりやすい	常温の水で懸濁させる
タシグナカプセル	200mg	黄赤	カプセル	△	△	カプセルの溶け残りあれば取り除く	

簡易懸濁法 東京医療センター 薬剤部のデータベース

2016.4.1更新

※ 複数規格あり ☆ 剤形違いあり

8Fr: EDチューブ、14Fr: ニュートラルチューブ

薬剤名		規格	色	形状	可否 (8 Fr.)	可否 (14 Fr.)	コメント	当院での対処法
※	タチオン錠	100mg	白	糖衣錠	○			
※	タチオン錠	50mg	白	糖衣錠	○			
	タナドーパ顆粒	750mg	白	顆粒	×	×		簡易懸濁による本剤の投与は困難 →注射剤への変更など、医師と協議
	タナトリル錠	5mg	白	素錠	○			
	タベジール錠	1mg	白	素錠	○			
☆	タミフルカプセル	75mg	灰/黄色	カプセル	○		少しカプセルが溶けきらない	
☆	タミフルドライシロップ		白	ドライシロップ	○			
	ダラシカプセル	150mg	肌/オレンジ	カプセル	○			
	タリオンOD錠	10mg	白	口腔内崩壊錠	○			
※	タルセバ錠	100mg	白	フィルム・ティング	○			抗がん剤→曝露防止策が必要
※	タルセバ錠	150mg	白	フィルム・ティング	○			抗がん剤→曝露防止策が必要
	炭カル錠	500mg	白	素錠	△	△		(最大で)10分放置すれば投与可 or 沈降炭酸カルシウムに変更
	炭酸水素ナトリウム		白	粉末	○			
	ダントリウムカプセル	25mg	オレンジ	カプセル	○			
	タンニン酸アルブミン		茶	粉末	○			
	タンボコール錠	50mg	白	素錠	○			
	チオラ錠	100mg	白	糖衣錠	×	×	砕いてもとけ残る	継続の必要性について、要検討
	チガソソカプセル	25mg	茶褐色	カプセル	○			催奇形性あり→曝露防止策が必要
	チョコラA末		茶	粉末	○			
	チラージン散		白	粉末	○			
※	チラーチンS錠	25μg	淡紅	素錠	○			病棟で破砕すれば早い、破砕しないなら少し放置
※	チラーチンS錠	50μg	白	素錠	○			病棟で破砕すれば早い、破砕しないなら少し放置
	沈降炭酸カルシウム		白	粉末	○			
	ツルバダ配合錠		青	フィルム・ティング	△	△	砕く	病棟で破砕して投与可
※	ディオバン錠	40mg	白	フィルム・ティング	○			
※	ディオバン錠	80mg	白	フィルム・ティング	○			
※☆	テオドール錠	200mg	白	徐放錠	×	×	徐放錠、粉碎不可	テオドールドライシロップに変更
※☆	テオドール錠	50mg	白	徐放錠	×	×	徐放錠、粉碎不可	テオドールドライシロップに変更
☆	テオドールドライシロップ	200mg/g	白	ドライシロップ	○			
※☆	テオロン錠	100mg	白	徐放錠	×	○	白粒残存(8fr通らない)、少しずつ注入する	テオドールドライシロップに変更
※	デカドロン錠	0.5mg	白	素錠	○			
※	デカドロン錠	4mg	淡赤	素錠	○			
☆	テグレート細粒		白	細粒	○			
☆	テグレート錠	100mg	白	素錠	○			
※	デタントールR錠	3mg	白	フィルム・ティング	×	△	砕く(白粒が残存。一部は通るが徐々に詰まっていく)	デタントール錠に変更 (注: 現在当院採用なし)
※	デタントール錠	1mg	白	糖衣錠	○			
	テトラミド錠	10mg	白	フィルム・ティング	○			
	テノタスチュアブル配合錠		白	チュアブル錠	○			
※	テノミン錠	25mg	白	フィルム・ティング	○			
※	テノミン錠	50mg	白	フィルム・ティング	○			
※	デバケンR錠	200mg	白	糖衣錠	×	×	徐放性、粉碎不可	バレリンシロップへ変更
☆	デバス細粒		白	細粒	○			
※☆	デバス錠	0.5mg	白	フィルム・ティング	○			

簡易懸濁法 東京医療センター 薬剤部のデータベース

2016.4.1更新

※ 複数規格あり ☆ 剤形違いあり

8Fr: EDチューブ、14Fr: ニュートラルチューブ

薬剤名	規格	色	形状	可否 (8 Fr.)	可否 (14 Fr.)	コメント	当院での対処法
※☆ デバス錠	1mg	白	フィルム・テイング	○			
(後) テプレノンカプセル「トロー」	50mg	灰青緑/淡橙	硬カプセル	○			
※ テモダールカプセル	100mg	白	カプセル	○			抗がん剤→曝露防止策が必要
※ テモダールカプセル	20mg	白	カプセル	○			抗がん剤→曝露防止策が必要
デュファストン錠	5mg	白	素錠	○			
テラナス錠	5mg	白	素錠	○			
テラピック錠	250mg	白	フィルム・テイング	○	○		
テルネリン錠	1mg	白	素錠	○			
テルロン錠	0.5mg	白	素錠	○			
トウモロコシデンブ		白	粉末	○			
ドグマチールカプセル	50mg	白	カプセル	○			
※☆ ドグマチール錠	50mg	白～帯黄白	フィルム・テイング	○			(最大で) 10分放置すれば投与可
※☆ ドグマチール細粒		白	細粒	△	△	溶けない(シリンジにすべて残る)	そのまま投与可
※☆ ドグマチール錠	200mg	白	フィルム・テイング	○		白浮遊物できるが通る	
※ (後) ドネベジル塩酸塩OD錠「DSEP」	3mg	黄	口腔内崩壊錠	○			
※ (後) ドネベジル塩酸塩OD錠「DSEP」	5mg	白	口腔内崩壊錠	○			
トピナ錠	50mg	白	素錠	○			
ドブスカプセル	200mg	白	カプセル	○			
ドブスOD錠	200mg	白	口腔内崩壊錠	○			
※ トフラニール錠	10mg	あずき	糖衣錠	×	×	粉碎不可(徐々に着色)	簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難 →他剤を検討
※ トフラニール錠	25mg	あずき	糖衣錠	×	×	粉碎不可(徐々に着色)	簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難 →他剤を検討
ドラール錠	15mg	淡橙	素錠	○			
トラクリア錠	62.5mg	淡ピンク	フィルム・テイング	○			
トラゼンタ錠	5mg	淡赤色	フィルム・テイング	○			
トラベルミン錠		白	有核錠	○			
※ ترامールOD錠	25mg	白	口腔内崩壊錠	○			
※ ترامールOD錠	50mg	白	口腔内崩壊錠	○			
トラムセット配合錠		淡黄	フィルム・テイング	○			
トランコロ錠	7.5mg	ピンク	フィルム・テイング	○			
☆ トランサミンカプセル	250mg	白/橙	カプセル	○			
☆ トランサミン細粒		白	細粒	○			
トリテレンカプセル	50mg	緑/黄緑	カプセル	○			
※ トリプタノール錠	25mg	黄色	フィルム・テイング	○			(最大で) 10分放置すれば投与可
※ トリプタノール錠	10mg	青	フィルム・テイング	○			(最大で) 10分放置すれば投与可
※ トレドミン錠	15mg	黄色	フィルム・テイング	○			
※ トレドミン錠	25mg	白	フィルム・テイング	○			
トレリーフ錠	25mg	淡黄	フィルム・テイング	○			
トロペロン細粒	1%	白	粉末	○			
☆ トロンピン細粒	5000単位	白	粉末	○			
ナイキサン錠	100mg	白	素錠	○			
ナイクリン散	10%	白	粉末	○			
ナウゼリンOD錠	10mg	淡黄色	素錠	○	○		
☆ ナウゼリン錠	10mg	白	フィルム・テイング	○			
☆ ナウゼリンドライシロップ		白	ドライシロップ	○			

簡易懸濁法 東京医療センター 薬剤部のデータベース

2016.4.1更新

※ 複数規格あり ☆ 剤形違いあり

8Fr: EDチューブ、14Fr: ニュートラルチューブ

薬剤名	規格	色	形状	可否 (8 Fr.)	可否 (14 Fr.)	コメント	当院での対処法
ナゼアOD錠	0.1mg	黄	口腔内崩壊錠	○			
ニコチン酸アミド		白	粉末	△	△	少し固まりができる	そのまま投与可
ニコランジル錠「日医工」	5mg	白	素錠	○			
※ ニトロールRカプセル	20mg	白	カプセル	×	×	白粒が残存（カプセルの溶け残りも少し）	ニトロール錠へ変更
※ ニトロール錠	5mg	白	素錠	○			
ニバジル錠	2mg	黄	フィルム・ティング	○			
※ (後)ニフェジピンCR錠「サワイ」	10mg	帯赤灰	フィルム・ティング	×	×	徐放性、粉碎不可	セバミットR細粒へ変更 (可能な限り分2に変更する)
※ (後)ニフェジピンCR錠「サワイ」	20mg	淡赤	フィルム・ティング	×	×	徐放性、粉碎不可	セバミットR細粒へ変更 (可能な限り分2に変更する)
乳酸カルシウム		白	粉末	○			
乳糖		白	粉末	○			
ニューレプチル散		黄	粉末	○			
※ ニューロタン錠	25mg	白	フィルム・ティング	○			(最大で)10分放置すれば投与可
※ ニューロタン錠	50mg	白	フィルム・ティング	△	△	砕く	病棟で破碎して(最大で)10分放置すれば投与可
ネオールカプセル	10μg	白	カプセル	△	△	カプセルの溶け残りあれば取り除く	
※ ネオールカプセル	25μg	白	カプセル	△	△	カプセルの溶け残りあれば取り除く	
※ ネオールカプセル	50μg	白	カプセル	△	△	カプセルの溶け残りあれば取り除く	
ネオドバトン配合錠	100mg	肌色	素錠	○			
ネキシウムカプセル	20mg	灰紫～青	カプセル	△	△	カプセルの溶け残りあれば取り除く	
ネクサバル錠	200mg	赤	フィルム・ティング	○			
ネシーナ錠	25mg	黄	フィルム・ティング	○			
ネシーナ錠	12.5mg	微黄	フィルム・ティング	○			
ネシーナ錠	6.25mg	微赤	フィルム・ティング	○			
ネルボン錠	5mg	白	素錠	○			
ノアルテン錠	5mg	白	素錠	○			
ノイキノン錠	10mg	黄	素錠	○			
ノイチーム顆粒		白	顆粒	○			
ノイロトロピン錠	4U	オレンジ	フィルム・ティング	×	×	溶けない	簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難 →継続投与の必要性について確認
ノーピア錠	100mg	クリーム	カプセル	○		中身は油状でOKだが軟カプセルはやや溶けにくい	
ノックピン		白	粉末	○		溶けないが詰らないで通る	
ノバミン錠	5mg	白	フィルム・ティング	○			
※ ノリトレン錠	10mg	淡オレンジ	フィルム・ティング	○			
※ ノリトレン錠	25mg	淡オレンジ	フィルム・ティング	○			
※ ノルバスクOD錠	2.5mg	淡黄	口腔内崩壊錠	○			
※ ノルバスクOD錠	5mg	淡黄	口腔内崩壊錠	○			
ノルバテックス錠	10mg	白	フィルム・ティング	○		白く懸濁	
※☆ ハーフジゴキシンKY錠	0.125mg	淡黄	素錠	○			
パーロデル錠	2.5mg	白	素錠	○			
バイアスピリン	100mg	白	フィルム・ティング	×	×	腸溶錠、コーティングで詰まりやすい	アスピリン末への変更
バイシリンG顆粒		ピンク	顆粒	○			
ハイゼット細粒		白	細粒	○			
ハイセレニン細粒	40%	白	細粒	○			
ハイドレアカプセル	500mg	ピンク	カプセル	○			抗がん剤→曝露防止策が必要
ハイボン錠	20mg	オレンジ	素錠	○			

簡易懸濁法 東京医療センター 薬剤部のデータベース

2016.4.1更新

※ 複数規格あり ☆ 剤形違いあり

8Fr: EDチューブ、14Fr: ニュートラルチューブ

薬剤名	規格	色	形状	可否 (8 Fr.)	可否 (14 Fr.)	コメント	当院での対処法
バキシル錠	10mg	淡ピンク	素錠	○			
バクシダール錠	50mg	白	フィルム・テイング	○			
☆ バクタ配合顆粒		白	顆粒	○			
☆ バクタ配合錠		白	素錠	○			
バスタレルF錠	3mg	白	フィルム・テイング	○			
バップフォー錠	10mg	白	フィルム・テイング	○			
☆ パナルジン細粒		白	細粒	×	×		パナルジン錠またはブラピックス錠へ変更
☆ パナルジン錠	100mg	白	フィルム・テイング	△	△	砕く	病棟で破砕して（最大で）10分放置すれば投与可
☆ パナン錠	100mg	白	フィルム・テイング	○			
☆ パナンドライシロップ		淡オレンジ	ドライシロップ	○			
バファリン錠	330mg	白	素錠	○			
バラクルード	0.5mg	白	フィルム・テイング	○			
バラミジンカプセル	300mg	黄白	カプセル	○			
バリエット錠	10mg	黄	フィルム・テイング	△	△	腸溶錠	原則として投与不可 腸溶錠→管が腸まで届いてれば、病棟で破砕して投与可 ランソプラゾール（タケブロン）OD錠へ変更
バリキサ錠	450mg	淡赤	フィルム・テイング	○			
※ (後) バルサルタン錠「サンド」	40mg	白	フィルム・テイング	○			
※ (後) バルサルタン錠「サンド」	80mg	白	フィルム・テイング	○			
ハルシオン錠	0.25mg	青	素錠	○			
バルトレックス錠	500mg	白	フィルム・テイング	△	△	砕いても溶け残る	調剤時に粉砕すれば投与可（光・吸湿性注意）
ハルナールD錠	0.2mg	白	口腔内崩壊錠	○			
バレリン錠	100mg	白	糖衣錠	×	×		バレリンシロップへ変更
(後) パロキセチン錠「DSEP」	10mg	帯紅白	フィルム・テイング	○			
パロチン錠	10mg	白	糖衣錠	×	×	溶けない（砕いても）& 白いカス	
バンクレアチン		淡茶	粉末	○			
パンスポリンT錠	200mg	黄色	フィルム・テイング	△	△	砕いても溶け残り通過せず	調剤時に粉砕すれば投与可
パントシン散		白	粉末	○			
パントシン錠	100mg	白	フィルム・テイング	×	×	砕いても溶け残り通過せず	パントシン散へ変更
パンピタン末		黄	粉末	○			
※ ビ・シフロール錠	0.5mg	白	素錠	○			
※ ビ・シフロール錠	0.125mg	白	素錠	○			
ビーゼットシー錠	2mg	白	糖衣錠	○			
ビオフェルミン		白	粉末	○			
ビオフェルミン配合錠		白	素錠	○			
ビオフェルミンR		白	粉末	○		55℃のお湯で懸濁すると耐性乳酸菌数が減少する	常温の水で懸濁させる
ピクシリンカプセル	250mg	白	カプセル	○			
☆ (後) ピクロックス顆粒		白	顆粒	○			
☆ (後) ピクロックス錠	200mg	白	素錠	○			
ヒスロン	5mg	白	素錠	○			
ヒスロンH錠	200mg	白	素錠	○		沈殿物あり	抗がん剤→曝露防止策が必要
☆ ビソルボン細粒		白	細粒	○			
☆ ビソルボン錠	4mg	白	素錠	○			
ピタメジンカプセル	25mg	クリーム/赤	カプセル	○			
ヒダントールF配合錠		白	素錠	○			

簡易懸濁法 東京医療センター 薬剤部のデータベース

2016.4.1更新

※ 複数規格あり ☆ 剤形違いあり

8Fr: EDチューブ、14Fr: ニュートラルデザインチューブ

薬剤名	規格	色	形状	可否 (8 Fr.)	可否 (14 Fr.)	コメント	当院での対処法
ヒデルギン舌下錠	1mg	白	素錠	○			
※ ビドキサル錠	10mg	白	糖衣錠	△	△	腸溶錠、粉碎不可	原則として投与不可 腸溶錠→管が腸まで届いてれば、病棟で破碎して投与可
※ ビドキサル錠	30mg	白	糖衣錠	△	△	腸溶錠、粉碎不可	原則として投与不可 腸溶錠→管が腸まで届いてれば、病棟で破碎して投与可
ビビアント錠	20mg	白	フィルム・テイング	○			
ピブラマイシン錠	100mg	白	フィルム・テイング	△	△	砕く（溶け残りが詰まる）	調剤時に粉碎し、（最大で）10分放置すれば投与可
ヒボカカプセル	15mg	黄色	カプセル	×	×	黄色粒がシリンジに付着	他のCa拮抗剤へ変更
ピメノールカプセル	100mg	白	カプセル	○			
（後）ピモベンダン錠「TE」	1.25mg	黄白	フィルム・テイング	○			
ピラセプト	250mg	青	フィルム・テイング	×	×	沈殿物あり 沈殿物詰まる	
ピラマイド		白	粉末	○			
※ ヒルナミン錠	5mg	白	糖衣錠	○			
※ ヒルナミン錠	25mg	白	糖衣錠	○			
ピレスパ錠	200mg	淡黄	フィルム・テイング	○			
☆ ビレチア細粒		白	細粒	○			
☆ ビレチア錠	25mg	肌色	糖衣錠	○			
※ ファスティック錠	30mg	白	フィルム・テイング	○			
※ ファスティック錠	90mg	ピンク	フィルム・テイング	○			
※ （後）ファミチジンD錠「サワイ」	10mg	白	口腔内崩壊錠	○			
※ （後）ファミチジンD錠「サワイ」	20mg	白	口腔内崩壊錠	○			
☆ ファロム錠	200mg	白	フィルム・テイング	△	△	砕く	調剤時に粉碎すれば投与可orドライシロップへ変更
☆ ファロムドライシロップ		黄	ドライシロップ	○			
※ ブイフェンド	200mg	白	フィルム・テイング	△	△	砕く	（錠剤大きい）病棟で破碎して投与可
※ ブイフェンド	50mg	白	フィルム・テイング	○			
フェアストン錠	40mg	白	素錠	○		沈殿物あり	抗がん剤→曝露防止策が必要
（後）フェキフェガソ塩酸塩錠「SANIK」	60mg	淡橙	フィルム・テイング	○			
フェノバル散		ピンク	粉末	○			
フェノバル錠	30mg	白	素錠	○			
フェブリク錠	20mg	白	フィルム・テイング	○			
フェマール錠	2.5mg	黄色	素錠	○		沈殿物あり	抗がん剤→曝露防止策が必要
フェロ・グラデュメット錠	105mg	赤	フィルム・テイング	×	×	砕く（溶け残りあり）	フェロミア顆粒に変更
フェロベリン配合錠		黄色	フィルム・テイング	○			
☆ フェロミア顆粒		淡緑	顆粒	○			
☆ フェロミア錠	50mg	白	フィルム・テイング	△	△	砕く（溶け残りが通過せず）	病棟で破碎して投与可or長時間放置する →フェロミア顆粒の方が投与しやすい
フオイバン錠	100mg	白	フィルム・テイング	○			
☆ フォリアミン錠	5mg	黄色	素錠	○			
ブスコパン錠	10mg	白	糖衣錠	○			
フスタギン末		茶	粉末	○			
フスタゾール錠	10mg	ピンク	糖衣錠	○			
※ ブラザキサカプセル	75mg	淡青/黄白	カプセル	×	×	粉碎、経管いずれも不適（AUC上昇）	他のNOAC（エリキウスなど）に変更
※ ブラザキサカプセル	110mg	淡青/淡青	カプセル	×	×	粉碎、経管いずれも不適（AUC上昇）	他のNOAC（エリキウスなど）に変更
フラジール内服錠	250mg	白	糖衣錠	△	△	砕く（溶け残りあり）	調剤時に粉碎すれば投与可（遮光するとよい）
ブラダロン錠	200mg	淡黄	フィルム・テイング	△	△	砕く	調剤時に粉碎すれば投与可or少し長く放置
フラピタン錠	5mg	淡いオレンジ	フィルム・テイング	×	×	砕く（フィルムの溶け残りあり）	継続の必要性について、要検討

簡易懸濁法 東京医療センター 薬剤部のデータベース

2016.4.1更新

※ 複数規格あり ☆ 剤形違いあり

8Fr: EDチューブ、14Fr: ニュートラルチューブ

薬剤名		規格	色	形状	可否 (8 Fr.)	可否 (14 Fr.)	コメント	当院での対処法
※	ブラビックス錠	25mg	白	フィルム・ティング	×	△	砕く（溶け残りあり）	細かく砕くか長時間放置する →調剤時に粉碎すれば投与可
※	ブラビックス錠	75mg	白	フィルム・ティング	×	△	砕く（溶け残りあり）	細かく砕くか長時間放置する →調剤時に粉碎すれば投与可
	フランドル錠	20mg	白	徐放錠	×	△	徐放錠、粉碎不可	フランドルテープに変更
	プリジスタナイーブ錠	800mg	暗赤	フィルム・ティング	○		(参考) 日本病院薬剤師会雑誌 2010: 46: 1056-9.	
※	フリハスOD錠	75mg	黄色	口腔内崩壊錠	○			
※	フリハスOD錠	50mg	白	口腔内崩壊錠	○			
	プリミドン細粒	99.50%	白	細粒	○			
	プリモボラン錠	5mg	白	素錠	○			
	プリンペラン錠	5mg	白	フィルム・ティング	○			
	フルイトラン錠	2mg	ピンク	素錠	○			
	(後) フルコナゾールカプセル「サワイ」	100mg	橙	カプセル	○		シフルカンは塊になるが本剤はチューブを通過した	
	ブルゼニド錠	12mg	あすき	糖衣錠	×	△	砕いても溶け残る	調剤時に粉碎すれば投与可
	フルダラ錠	10mg	淡黄赤	フィルム・ティング	○			抗がん剤→曝露防止策が必要
	フルツロンカプセル	100mg	ピンク/白	カプセル	○			抗がん剤→曝露防止策が必要
	ブルフェン錠	100mg	白	糖衣錠	○			
	フルメジン錠	0.5mg	淡オレンジ	糖衣錠	○			
	プレタールOD錠	50mg	白	口腔内崩壊錠	○			
	プレディニン錠	50mg	白	フィルム・ティング	○			
☆	プレドニゾン散		白	粉末	○			
※☆	プレドニゾン錠「旭化成」	1mg	白	素錠	○			
※☆	プレドニン錠	5mg	白	素錠	○			
	プレマリン錠	0.625mg	白	糖衣錠	△	△	砕いた大きさに依存する。	調剤時に粉碎すれば投与可（光・吸湿性注意）
	プレミメントLD錠	合剤	白	フィルム・ティング	△	△	砕く（少し溶け残る）	（最大で）10分放置すれば投与可
※☆	プログラフカプセル	0.5mg	黄	カプセル	○			
※☆	プログラフカプセル	1mg	白	カプセル	○			
※☆	プログラフ細粒	0.2mg	白	細粒	○			
	プロサイリン錠	20μg	白	フィルム・ティング	○			
	プロスター錠	25mg	微黄	素錠	○		沈澱物あり	
	プロセキソール錠	0.5mg	白	フィルム・ティング	×	×	腸溶錠、粉碎不可（腸ろうがある場合は可）	簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難 →ケースバイケースなので代替案については医師と協議
※	(後) プロセミド錠「テバ」	20mg	白	フィルム・ティング	○			
※	(後) プロセミド錠「テバ」	40mg	白	フィルム・ティング	○			
	(後) プロチゾラムOD錠「タイヨー」	0.25mg	白	素錠	○			
	プロバジル錠	50mg	白	フィルム・ティング	○			
	プロバリン		白	粉末	×	×	シリンジ内に残る	継続の必要性について、要検討
※	プロブレス錠	8mg	淡橙	素錠	○			
※	プロブレス錠	4mg	橙	素錠	○			
	プロヘパール		チョコ	糖衣錠	△	△	砕いても溶け残る	調剤時に粉碎すれば投与可（吸湿性注意）
	プロマックD錠	75mg	白	口腔内崩壊錠	○			
☆	フロモックス細粒		ピンク	細粒	○			
☆	フロモックス錠	100mg	ピンク	フィルム・ティング	○	○	5分では溶け残りあり	（最大で）10分放置すれば投与可
	フロリネフ錠	0.1mg	白	素錠	○			
	フロルモン錠		白	腸溶錠	×	×	腸溶錠、粉碎不可（腸ろうがある場合は可）	他剤（プロヘパールなど）を検討

簡易懸濁法 東京医療センター 薬剤部のデータベース

2016.4.1更新

※ 複数規格あり ☆ 剤形違いあり

8Fr: EDチューブ、14Fr: ニュートラルチューブ

薬剤名	規格	色	形状	可否 (8 Fr.)	可否 (14 Fr.)	コメント	当院での対処法
プロレナール錠	5μg	白	素錠	○			
※ バイスンOD錠	0.2mg	淡黄	口腔内崩壊錠	○			
※ バイスンOD錠	0.3mg	淡黄	口腔内崩壊錠	○			
※ ヘグタミンA錠		ピンク	糖衣錠	△	△	砕く(溶け残りあり)	調剤時に粉碎すれば投与可(遮光するとよい)
※ ヘグタミンB錠		白	糖衣錠	△	△	砕く(溶け残りあり)	調剤時に粉碎すれば投与可(遮光するとよい)
ヘサコリン散		白	粉末	○			
ヘザートルSR錠	200mg	白	フィルム・テック	×	×	徐放錠、粉碎不可	他のフィブレート系(リピディルなど)へ変更
ヘサノイド	10mg	黄/赤褐色	カプセル	△	△	カプセルの溶け残りあれば取り除く	抗がん剤→曝露防止策が必要
※ バシケアOD錠	5mg	黄色	素錠	○			
※ バシケアOD錠	2.5mg	白	素錠	○			
バタナミン錠	25mg	白	素錠	○			
※ バタニス錠	25mg	褐色	フィルム・テック	△	△	砕く	調剤時に粉碎すれば投与可
※ バタニス錠	50mg	黄色	フィルム・テック	△	△	砕く	調剤時に粉碎すれば投与可
ベネシット錠	250mg	白	フィルム・テック	○		5分では溶け残りあり	(最大で)10分放置すれば投与可
※ ベネット錠	75mg	微黄	フィルム・テック	○			他剤と混ぜないで起床時に投与(起き上がった状態で)
※ ベネット錠	17.5mg	ピンク	フィルム・テック	○			他剤と混ぜないで起床時に投与(起き上がった状態で)
※ ベネット錠	2.5mg	白	フィルム・テック	○			他剤と混ぜないで起床時に投与(起き上がった状態で)
バタナミン錠	25mg	白	素錠	○			
ベプリコール錠	50mg	白	フィルム・テック	○			
☆ ペリアクチン散		白	粉末	○			
☆ ペリアクチン錠	4mg	白	素錠	○			
ベリチーム顆粒		淡い茶	顆粒	×	×	溶けない(入口に詰まりシリンジにも残る)	簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難 →他剤を検討
※ ベルサンチンLカプセル	150mg	白/ピンク	カプセル	×	○	黄色粒が残存	最小通過サイズ12Fr
※ ベルサンチン錠	25mg	赤	糖衣錠	○			
ベルサンチン錠	100mg	白	糖衣錠	○			
ベルジピンLA	20mg	白	カプセル	×	○		最小通過サイズ12Fr
ベルジピン散		黄	粉末	○			
※ ベルソムラ錠	15mg	白	フィルム・テック	△	△	砕く	病棟で破砕して(最大で)10分放置すれば投与可
※ ベルソムラ錠	20mg	白	フィルム・テック	△	△	砕く	病棟で破砕して(最大で)10分放置すれば投与可
※ ヘルベッサーRカプセル	100mg	白	カプセル	×	○	白粒残存(8Fr通らない)、少しずつ注入する	
※ ヘルベッサー錠	30mg	白	素錠	原則×	原則×	徐放錠、粉碎不可(やむなく粉碎するなら細かく砕く)	簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難 →ゲースバイケースなので代替案については医師と協議 →やむをえず投与する場合は調剤時に粉碎すれば投与可 →14FrならヘルベッサーR投与可能
ベルマックス錠	250μg	緑	素錠	○		粉碎不可(吸入毒性、眼刺激性あり)	吸入毒性・眼刺激性あり→曝露防止策が必要
パロテック錠	2.5mg	白	素錠	○			
ベンザリン細粒		白	細粒	○			
※ ペンタサ錠	250mg	灰白～淡灰黄	素錠	×	×	腸液部分が溶けず入口に詰まる/粉碎不可	簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難 →ゲースバイケースなので代替案については医師と協議
※ ペンタサ錠	500mg	灰白～淡灰黄	素錠	×	×	腸液部分が溶けず入口に詰まる/粉碎不可	簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難 →ゲースバイケースなので代替案については医師と協議
ペンタジン錠	25mg	白	フィルム・テック	○			
ホクナリンドライシロップ		白	ドライシロップ	○			
☆ ホスミシン錠	500mg	白	素錠	○			
☆ ホスミシンドライシロップ		白	ドライシロップ	○			
ホスリボン配合顆粒		白～微黄拍	顆粒	○			
※ ☆ ボナロン経口ゼリー	35mg	微黄	ゼリー剤	○			

簡易懸濁法 東京医療センター 薬剤部のデータベース

2016.4.1更新

※ 複数規格あり ☆ 剤形違いあり

8Fr: EDチューブ、14Fr: ニュートラルチューブ

薬剤名	規格	色	形状	可否 (8 Fr.)	可否 (14 Fr.)	コメント	当院での対処法
※☆ ボナロン錠	35mg	白	素錠	○			他剤と混ぜないで起床時に投与（起き上がった状態で）
※☆ ボナロン錠	5mg	白	素錠	○			他剤と混ぜないで起床時に投与（起き上がった状態で）
ボラキス錠	2mg	白	素錠	○			
☆ ボララミン錠	2mg	白	素錠	○			
※ ホリゾン錠	5mg	白	素錠	○			
ポリフル錠		白	フィルム・テイク	○		白い浮遊物（成分の塊ができる）	調剤室での粉碎不適
※ ポルタレンSR	37.5mg	白	カプセル	×	○	白粒が残る	8Fr→ポルタレン錠/坐薬へ変更
※ ポルタレン錠	25mg	オレンジ	フィルム・テイク	△	△	砕く	病棟で破碎して投与可
ボンゾール錠	100mg	白	フィルム・テイク	○			
☆ ボンタールカプセル	250mg	白	カプセル	×	×	成分は水に溶けず浮いてしまう。シリンジ内に残る	他のNSAIDsに変更
マーズレンS顆粒		青	細粒	○			
マーロックス懸濁顆粒		白	顆粒	○			
マイスタン錠	5mg	淡オレンジ	素錠	○			
マイスリー錠	5mg	淡オレンジ	フィルム・テイク	○			
マイソリン錠	250mg	白	素錠	○			
※ マグラックス錠	330mg	白	素錠	○		懸濁するが詰まることはない	
※ マグラックス錠	500mg	白	素錠	○		懸濁するが詰まることはない	
マドパー配合錠		ピンク	素錠	○			酸化マグネシウムと同一溶液で懸濁しない (シボドバの力価が低下する)
マブリン散	1%	白	粉末	○			抗がん剤→曝露防止策が必要
※ マリゼブ錠	12.5mg	黄	フィルム・テイク	○			
※ マリゼブ錠	25mg	白	フィルム・テイク	○			
ミオナール錠	50mg	白	糖衣錠	△	△	砕く	病棟で破碎して投与可
ミカルディス錠	40mg	白	素錠	○			
ミ克蘭錠	5mh	白	素錠	○			
ミコプティンカプセル	150mg	赤褐色	カプセル	△	△	カプセルの溶け残りあれば取り除く	
☆ ミノマイシン顆粒		オレンジ	顆粒	○		溶け残り少量あり（着色する）壁にくっつく	ミノマイシン錠の方が簡易懸濁しやすい
☆ ミノマイシン錠	50mg	黄色	フィルム・テイク	△	△	砕く	病棟で破碎して投与可
ミヤBM細粒		白	細粒	○			
ミラベックスLA錠	0.375mg	白	素錠	×	×	徐放錠、粉碎不可	ビ・シフロールへ変更
ミラベックスLA錠	1.5mg	白	素錠	×	×	徐放錠、粉碎不可	ビ・シフロールへ変更
ミルラクト細粒		白	細粒	○			
☆※ ムコサールドライシロップ		白	ドライシロップ	○			
ムコスタ錠	100mg	白	フィルム・テイク	○			
☆※ ムコソルバンL錠	45mg	白	フィルム・テイク	×	×	徐放錠、粉碎不可	簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難 →ムコソルバン錠へ変更
☆※ ムコソルバンLカプセル	45mg	黄/白	カプセル	×	×	徐放錠、粉碎不可	簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難 →ムコソルバン錠へ変更
☆※ ムコソルバン錠	15mg	白	素錠	○			
☆ ムコダインドライシロップ		白	ドライシロップ	○			
☆ ムコダイン錠	250mg	白	フィルム・テイク	○			
☆ メイアクトMS細粒		オレンジ	細粒	○			
☆ メイアクトMS錠	100mg	白	フィルム・テイク	○			
メイラックス錠	1mg	白	素錠	○			
※ メインテート錠	0.625mg	白	素錠	○			
※ メインテート錠	2.5mg	白	素錠	○			

簡易懸濁法 東京医療センター 薬剤部のデータベース

2016.4.1更新

※ 複数規格あり ☆ 剤形違いあり

8Fr: EDチューブ、14Fr: ニュートラルチューブ

薬剤名		規格	色	形状	可否 (8 Fr.)	可否 (14 Fr.)	コメント	当院での対処法
※	メキシチールカプセル	50mg	黄/オレンジ	カプセル	○			
※	メキシチールカプセル	100mg	白/薄黄赤	カプセル	○			
☆	メジコン散		白	粉末	○			
☆	メジコン錠	15mg	白	フィルム・テック	○		フィルム様のものが残存	
	メスチノン錠	60mg	橙	糖衣錠	△	△	砕く(溶け残りあり)	細かく破砕すれば8Frも通る
	メソトレキセート錠	2.5mg	黄	素錠	○			
	メタクト配合錠HD		帯黄白	フィルム・テック	△	△	砕いても溶け残りの大きさが大きく通過せず	10分→溶け残る。20分以上置けば溶ける
	メタクト配合錠LD		白	フィルム・テック	×	△	砕いても溶け残りの大きさが大きく通過せず	10分→溶け残る。20分以上置けば溶ける
	メチコパール細粒	500μg	ピンク	細粒	○			
	メチコパール錠	500μg	白	糖衣錠	○			
	メテルギン錠	0.125mg	茶	糖衣錠	○		わずかに溶け残りあり	
	メトグルコ錠	250mg	白	フィルム・テック	○			
	メトクロプラミド錠「テバ」	5mg	白	素錠	○			
	メトピロンカプセル	250mg	クリーム	カプセル	△	△	カプセルの溶け残りあれば取り除く	
	メトホルミン錠「TE」	500mg	微黄	フィルム・テック	△	△	砕く	病棟で破砕して投与可
	メトリジン錠	2mg	白	素錠	○			
	メドロール錠	2mg	淡紅	素錠	○			
※	メハロチン錠	5mg	白	素錠	○			
※	メハロチン錠	10mg	淡ピンク	素錠	○			
☆	メブチン錠	50μg	白	素錠	○			
※	メマリー錠	10mg	白	フィルム・テック	○			
※	メマリー錠	20mg	白	フィルム・テック	○			
※	メマリー錠	5mg	淡赤	フィルム・テック	○			
※	メマリーOD錠	5mg	淡赤白	口腔内崩壊錠	○			
※	メマリーOD錠	20mg	白	口腔内崩壊錠	○			
	メリスロン錠	6mg	白	素錠	○			
	メルカゾール錠	5mg	白	糖衣錠	△	△	砕く(溶け残りあり)	病棟で破砕して投与可
	メルビン錠	250mg	白	フィルム・テック	△	△	砕く(溶け残りあり)	病棟で破砕して投与可
	モービック錠	10mg	黄色	素錠	○			
	(後)モサプリドクエン酸塩錠「ファイ	5mg	白	フィルム・テック	○			
	ユーゼル錠	25mg	白	素錠	○		沈澱物あり	必要に応じてフラッシュする
	ユーロジン錠	1mg	白	素錠	○			
	ユニシア配合錠HD		淡赤	素錠	○			
	ユニシア配合錠LD		淡黄	素錠	○			
☆	ユベランカプセル	100mg	白/ピンク	カプセル	○			
☆	ユベラ顆粒		白	顆粒	○			
	ユベラ錠	50mg	オレンジ	糖衣錠	×	×		ユベランへ変更
	ユリーフ錠	4mg	白	素錠	○			
	ユリノーム錠	50mg	白	素錠	○			
	ヨウ化カリウム		白	粉末	○			
☆	葉酸散		黄	粉末	○			
☆	ラキソベロン錠	2.5mg	白	フィルム・テック	○			
☆	ラシックス細粒		白	細粒	○			
※☆	ラシックス錠	40mg	白	素錠	○			
※☆	ラシックス錠	20mg	白	素錠	○			

簡易懸濁法 東京医療センター 薬剤部のデータベース

2016.4.1更新

※ 複数規格あり ☆ 剤形違いあり

8Fr: EDチューブ、14Fr: ニュートラルチューブ

薬剤名	規格	色	形状	可否 (8Fr.)	可否 (14Fr.)	コメント	当院での対処法
ラジレス錠	150mg	ピンク	フィルム・テック	△	△	砕く(溶け残りあり)	病棟で破砕して投与可
ラステットSカプセル	25mg	淡オレンジ	カプセル	○			抗がん剤→曝露防止策が必要
ラックビー微粒N		白	粉末	○			
※ ラニラピッド錠	0.05mg	白	素錠	○			
(後) ラニラピッド錠「日医工」	10mg	淡黄	フィルム・テック	△	△	腸溶錠	原則として投与不可 腸溶錠→管が腸まで届いてれば、病棟で破砕して投与可 ラニラピッド錠(タケブロン) OD錠へ変更
ラボナ錠	5mg	白	フィルム・テック	○			
※ ラミクタール錠	25mg	白	素錠	○			
※ ラミクタール錠	100mg	白	素錠	○			
ラミシール錠	125mg	白	素錠	○			
※ (後) ラミシール錠OD錠「日医工」	15mg	帯黄白色	口腔内崩壊錠	×	○	55℃のお湯で懸濁すると粒が残り、詰まりやすい	常温の水で懸濁させる、8Frはタケキャブへの変更を検討
※ (後) ラミシール錠OD錠「タイヨー」	30mg	帯黄白色	口腔内崩壊錠	×	○	55℃のお湯で懸濁すると粒が残り、詰まりやすい	常温の水で懸濁させる、8Frはタケキャブへの変更を検討
リーゼ錠	5mg	白	フィルム・テック	○			
リーバクト顆粒		白	顆粒	△	△	シリシリン内にかなり残る(何回かフラッシュ必要)	何回かフラッシュが必要
※ リーマス錠	100mg	白	フィルム・テック	△	△	砕く(溶け残りあり)	病棟で破砕して投与可
※ リーマス錠	200mg	白	フィルム・テック	△	△	砕く(溶け残りあり)	病棟で破砕して投与可
リウマトレックスカプセル	2mg	黄	カプセル	○			
リオナ錠	250mg	白	フィルム・テック	○			
※ リクシアナ錠	15mg	黄	フィルム・テック	○	○		
※ リクシアナ錠	30mg	淡赤	フィルム・テック	○	○		
※ リクシアナ錠	60mg	黄	フィルム・テック	○			
リザベンカプセル	100mg	白	カプセル	○			
リスパダールOD錠	1mg	白	口腔内崩壊錠	○			
☆ リスパダール細粒		白	細粒	○			
リズミック錠	10mg	白	素錠	○			
※ リスモダンR錠	150mg	白	フィルム・テック	×	×	徐放錠、粉碎不可	リスモダンカプセルに変更
※ リスモダンカプセル	50mg	青/緑	カプセル	△	△	カプセルの溶け残りあれば取り除く	
リタリン錠	10mg	白	素錠	○			
リドール錠	3mg	白	フィルム・テック	○			
リバロOD錠	1mg	帯黄白色	口腔内崩壊錠	○	○		
リバロ錠	1mg	白	フィルム・テック	○			
リビテル錠	80mg	白	素錠	○	○		
※ リビートル錠	10mg	白	フィルム・テック	○			
※ リビートル錠	5mg	淡ピンク	フィルム・テック	○			
リファジンカプセル	150mg	青/赤	カプセル	○			
リボクリン錠	100mg	白	素錠	○			
☆ リボトリアル細粒		白	細粒	○		溶けないが懸濁状態で通過する	
☆ リボトリアル錠	0.5mg	白	素錠	○			
リボバス5mg	5mg	白	素錠	○			
リマチル錠	100mg	白	糖衣錠	×	×	錠剤の破壊そのものが困難(形のまま溶け残り) 粉碎するとメルカプタン臭あり、吸湿で成分分解	簡易懸濁・粉碎による本剤の投与は困難 →他剤を検討
硫酸アトロピン散		白	粉末	○			
硫酸ポリミキシンB錠	10万単位	白	フィルム・テック	△	△	砕いた形に依存するのでなるべく細かく砕く	調剤時に粉碎すれば投与可
硫酸マグネシウム		白	粉末	○			
※ リリカカプセル	25mg	白	カプセル	○			

簡易懸濁法 東京医療センター 薬剤部のデータベース

2016.4.1更新

※ 複数規格あり ☆ 剤形違いあり

8Fr: EDチューブ、14Fr: ニュートラルデザインチューブ

薬剤名		規格	色	形状	可否 (8 Fr.)	可否 (14 Fr.)	コメント	当院での対処法
※	リリカカプセル	75mg	白/赤	カプセル	○			
	リルテック錠		白	フィルム・テイング	○			
	リン酸ジヒドロコデイン散		白	粉末	○			
	リンラキサー錠	125mg	白	素錠	○			
	ルーラン錠	4mg	白	フィルム・テイング	○			
※	ルジオミール錠	25mg	黄色	フィルム・テイング	○			
※	ルジオミール錠	10mg	白	フィルム・テイング	○			
	ルテジオン錠		白	素錠	○			
	ルネスタ錠		白	フィルム・テイング	○			
※	ルブラック錠	4mg	白	素錠	○			
※	ルブラック錠	8mg	白	素錠	○			
	ルボックス錠	25mg	黄	フィルム・テイング	△	△	砕く	病棟で破碎して投与可
	ルリッド錠	150mg	白	フィルム・テイング	○			
	レイアタツカプセル	150mg	青/淡青	カプセル	○			
	レキソタン細粒		白	細粒	○		少し溶け残るが懸濁状態で通る	
※	レキソタン錠	2mg	白	素錠	○			
※	レキソタン錠	5mg	淡ピンク	素錠	○			
	レクサプロ錠	10mg	白	フィルム・テイング	○	○		
	レクチゾール錠	25mg	白	素錠	○			
	レグバラ錠	25mg	淡緑黄緑	フィルム・テイング	○			
	レザルタス配合錠HD		白	フィルム・テイング	×	△	砕く(溶け残る。細かく砕いても溶け残る)	14Frでなるべく細かく砕いて20分以上置く →調剤時に粉砕すれば投与可
	レザルタス配合錠LD		白	フィルム・テイング	×	△	砕く(溶け残りあり)	14Frでなるべく細かく砕いて20分以上置く →調剤時に粉砕すれば投与可
	レスタミンコーワ錠	10mg	白	糖衣錠	△	△	砕く(長く放置する)	病棟で破碎して投与可
	レスブレン錠	20mg	白	糖衣錠	○			
	レスミット錠	5mg	白	糖衣錠	○			
	レスリン錠	25mg	白	フィルム・テイング	○			
	レダマイシンカプセル	150mg	白/灰	カプセル	○			
	レトロピルカプセル	100mg	白	カプセル	○			
	レナジェル錠	250mg	白	フィルム・テイング	○			
	レナデックス	4mg	白	素錠	○			
※	レニベース錠	2.5mg	淡ピンク	素錠	○			
※	レニベース錠	5mg	淡ピンク	素錠	○			
	レバチオ錠	20mg	白	フィルム・テイング	○			
	(後)レバミピドOD錠「明治」	100mg	白	素錠	○			
	レブラミドカプセル	5mg	白	カプセル	△	△	カプセルの溶け残りあれば取り除く	抗がん剤→曝露防止策が必要
	レバトールカプセル	200mg	白	カプセル	△	△	カプセルの溶け残りあれば取り除く	催奇形性あり→曝露防止策が必要
	レボトミン散		白	粉末	○			
	(後)レボフロキサシン錠「DSEP」	250mg	黄	フィルム・テイング	○			
	レメロン錠	15mg	黄	フィルム・テイング	○			
	レンドルミンD錠	0.25mg	白	口腔内崩壊錠	○			
	ロイケリン散		淡黄	粉末	○			
※	ローコール錠	40mg	淡黄	フィルム・テイング	○			
※	ローコール錠	20mg	白	フィルム・テイング	○			
	ロキシニン錠	60mg	淡ピンク	素錠	○			(最大で)10分放置すれば投与可

簡易懸濁法 東京医療センター 薬剤部のデータベース

2016.4.1更新

※ 複数規格あり ☆ 剤形違いあり

8Fr: EDチューブ、14Fr: ニュートラルチューブ

薬剤名	規格	色	形状	可否 (8 Fr.)	可否 (14 Fr.)	コメント	当院での対処法
(後) ロキソプロフェンナトリウム錠	60mg	うすい紅	素錠	○			
ロコルナル錠	100mg	白	フィルム・ティング	△	△	砕く(溶け残りあり)	病棟で破碎して投与可
ロゼレム錠	8mg	淡黄	フィルム・ティング	○			
☆ ロドピン細粒		白	細粒	×	×	白い浮遊物が入口に詰まる(シリンジに残る)	ロドピン錠に変更
☆ ロドピン錠	25mg	白	糖衣錠	○			
ロナセン錠	4mg	白	素錠	○			
ロヒプノール錠	1mg	白	素錠	○			
☆ ロベミンカプセル	1mg	白	カプセル	○			
☆ ロベミン小児用細粒		淡オレンジ	細粒	○			
ロラメット錠	1.0mg	白	素錠	○			
ロルカム錠	4mg	白	フィルム・ティング	○			
ロレルコ錠	250mg	白	フィルム・ティング	○			
※ ワーファリン錠	0.5mg	黄色	素錠	○			
※ ワーファリン錠	1mg	白	素錠	○			
ワイテンス錠	2mg	白	素錠	○			
ワイバックス錠	0.5mg	白	素錠	○			
ワソラン錠	40mg	黄色	糖衣錠	△	△	砕く(溶け残りあり)	病棟で破碎して投与可
ワンアルファ錠	0.5μg	白	素錠	○			

【補足】

- 病棟で**破碎**して投与可…錠剤が水で「ぬれ」やすくするために軽く砕けば投与可能
- 調剤室で**粉碎**すれば投与可…粉の状態になるまで錠剤をつぶす(粉碎)することで投与可能
(本表では「破碎」と「粉碎」とを上記のように使い分けています。)
- 診療化成株式会社製の簡易懸濁用ボトルを利用して試験した結果を記載しています(方法は指導用資料参照)
(方法は、実際の手技を参考にし、30mLの温湯に錠剤やカプセル剤を1つ入れ、約2分間振とうした結果です。)
- 抗がん剤、催奇形性、吸入毒性、眼刺激性のある薬剤は、曝露防止策による取り扱いを推奨します。
(手袋、マスク〔可能であればゴーグル、エプロンなど〕を着用し、周囲を汚染しないようトレーなどを準備する。使用した容器はなるべく使い捨てとする。)

【本データベースについて】

- 公開している情報は、東京医療センター(当院)において簡易懸濁法を適用する際の各薬剤の対処法についてまとめたものです。当院薬剤部では、本データを参考にして院内の業務に活用しております。
- また、地域医療連携の一環として、薬局等で退院後も経管投与を継続されている患者の皆様に対しての服薬支援にもお役立ていただけるよう、ホームページ上に一般公開しております。
- 本データは、基本的には当院薬剤部において実施した試験結果に基づいた内容となっておりますので、医療従事者の方々が本データを活用される際には各自の責任でご利用ください。
- なお、業務以外の目的での利用や無断転載はご遠慮ください。
- 本データベースへのリンクを希望される際は、本pdfファイルへ直接リンクするのではなく、本pdfを掲載している当院薬剤部ホームページへのリンクとしてください。
(なお、リンクを貼られる際は当院薬剤部へご一報ください)